

慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resources

Title	社内組織間の技術移転 - A社における5製品のイノベーションの比較分析 -
Sub Title	
Author	中島義弘(Nakajima, Yoshihiro) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0217

社内組織間の技術移転 A社における5製品のイノベーションの比較分析

本研究は、総合電子・電気機器メーカーA社における近年の5つの製品のイノベーション比較分析をすることを目的とする。

より具体的には、5つのイノベーションは皆成功例であるが、(1)製品によってスタート部門がそれぞれ異なるのではないか、(2)製品のスタート部門の違いによって、成功の要因が異なるのではないか、(3)製品の特性が違うことによって、成功要因が違うのではないか、という素朴な疑問についての考察を試みることである。検証方法とデータとしては、インタビューによる実際調査、関係部門へのインタビュー調査、当事者へのアンケート調査そして社史と公刊物を利用した。

その結果、(1)製品によってスタート部門は違っていたが同一の部門もある、(2)製品のスタート部門の違いによって、成功の要因も異なっていた、(3)製品の特性が違うことによって成功の要因に差が見られた、ということが解明された。さらに、スタート部門の違い、製品の特性の違いによって、部門間に起こるコンフリクトには差があり、コンフリクトが多く起こりがちのグループには、調整部門なる部が存在することがわかった。ただし、調整部門には問題決定がない為、その機能を十分果たしているとは言えないこともわかった。彼らに課せられた役目は明日のビジョンとなる製品意思決定というよりは日常の中で起こるクレームに対しどのように調整するか、新製品をどのように販売するかという販売促進的な役目が多い。

以上の研究は、企業の成長をもたらすイノベーションのマネジメントが、イノベーション・スタート部門、製品の特性によって異なることを示唆しているし、成功を導く為の要因も異なることを指摘していると言えよう。